



# テキスト、プリント、参考書

## 【利用方法と良し悪し】

講義を行う際、理解の達成度を高めるために、適切なテキストやプリントが必要である。

プリントはテキストの理解を深め、またテキストに掲載されていない最新のデータなどを学生に知らせる上で効果的である。また、テキストを使用せずに、その回に進行する講義内容をまとめたものを毎回配布する場合もあるが、あくまでシラバス（授業計画）に沿ったものでなくてはならない。

### ○自主学習を促す：テキスト

それぞれの授業で、授業の目的・内容・到達目標や内容が決まれば、それらを達成するための適切な教材を選定する必要がある。その教材として考えられるのがテキストである。学生にテキストを指定する場合、以下のような利点がある。

- ① 授業内容の全体像を参照させることができる。
- ② 各回の授業が、全体の中でどこに位置づけられているか明示できる。
- ③ 重要な概念や定義・定理等を参照させることができる。
- ④ 自学自習を促す目的での予習と復習に活用できる。

それに対し、問題点としては、テキストを指定すると、授業内容が、そのテキストの定義や表現方法などに制約されざるを得なくなる。

次にテキストを指定する際、学生には、そのテキストは授業の中でどのように活用するのかを事前に説明しておく必要がある。テキストを中心に授業を進めるのか、テキストを参考書程度に活用するのか、また資格取得等の試験対策のテキストとして利用するのか等、状況に応じ説明すべきである。言うまでもないが、学生にテキストを購入させておきながら、全く使用しないということは避けるべきである。

### “テキストを選ぶ際に”チェック ✓

- 授業の目的・内容・到達目標に合っているか
- テキストが十分活用される授業の進め方になっているか
- 候補となるテキストは、記号法・立場・学説など授業の内容と合っているか
- 受講する学生の能力に合っているか
- 価格は適正か
- 選んだテキストを通読したか

### ○教員が選ぶ情報の宝箱：プリント

テキストと並んで教材として重要なのがプリントであるが、プリントを作成するに際し、以下のような注意を払う必要がある。

- ①プリントの内容が論理的に展開しているか。
- ②プリントを見てその講義内容の概要が理解できるか。
- ③統計資料等に誤りはなく最新のデータであるか、引用文献や参考文献にも言及しているか。

### ○手に入れやすく、使いやすいものを：参考書

参考書については、洋書であれ和書であれ入手が容易であることや、学生に自学自習を促すような内容であることが特に望まれる。

### ○フィードバックが大切：レポート

学生にレポートを課す際、高校までの「作文」等とは異なり、大学でのレポートとはどのようなものであるかを、まず認識させる必要がある。更に、それぞれの分野や領域に応じたレポートの形式、引用の仕方、参考文献の挙げ方等、技術的な問題も時間をかけて説明すべきである。

テーマについては、あまり漠然としたテーマを課すよりも、学生がしっかりイメージできるよう具体的なテーマを設定した上で、このテーマに対しどのような手順でアプローチすれば、レポートが完成できるのかも説明しておく必要がある。

提出されたレポートは、すぐに添削しフィードバックするのが理想である。しかし、「受講生が多い」、「時間がない」などの事情でなかなかフィードバックができない場合には、「模範解答」を提示する等、何らかの工夫をし、学生がレポートを提出しても、教員から何の反応も示さないような状況だけは避けるべきである。

